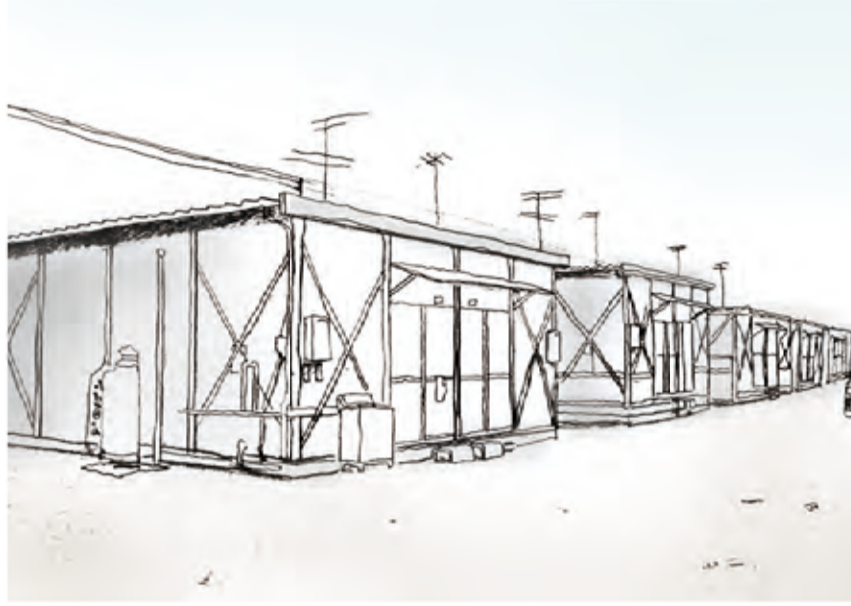


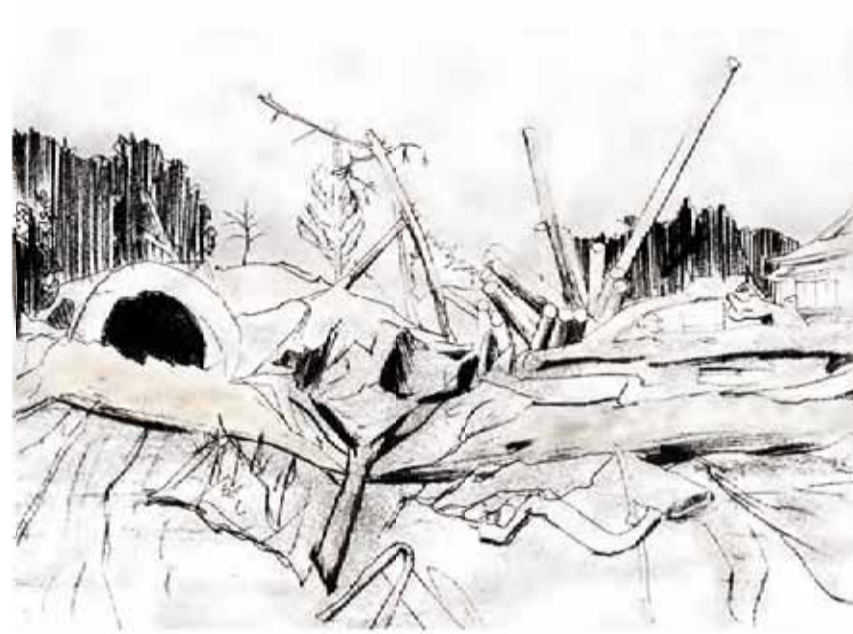
Life goes on

熊坂友輝 (宮城大) 小松智彦 (東京理科大) 持田健人 (神奈川大) 仁藤友理 (明治大) 武藤雅昭 (明治大)
山下慶 (東京大) 木口彰 (東京大) 田中達朗 (東京理科大) 本馬奈緒 (宮城大) 山崎大樹 (東京大)

漁業従事者のAさん
父Aさん、母、長男、



農業従事者のBさんは
父Bさん、母、長男、

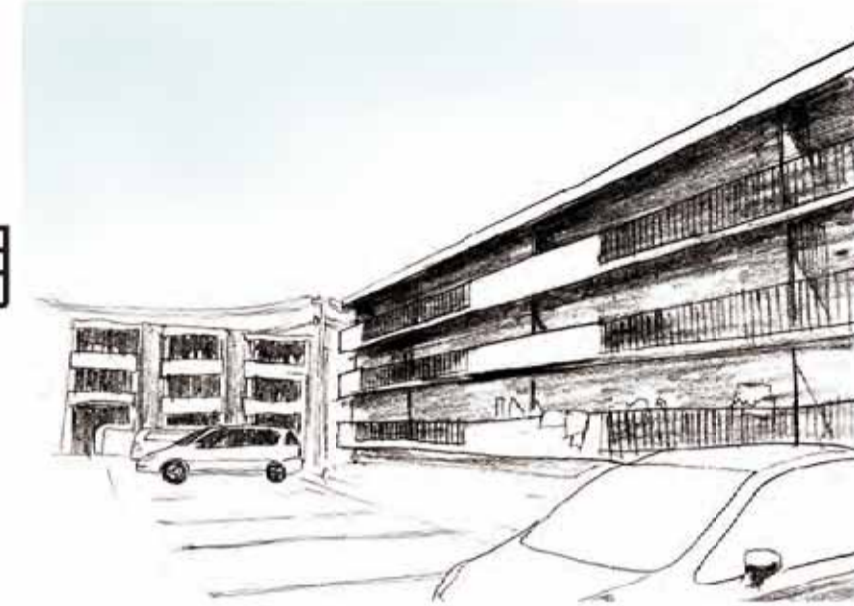


サラリーマンのCさんは…
父Cさん、母、長女、次女、三女

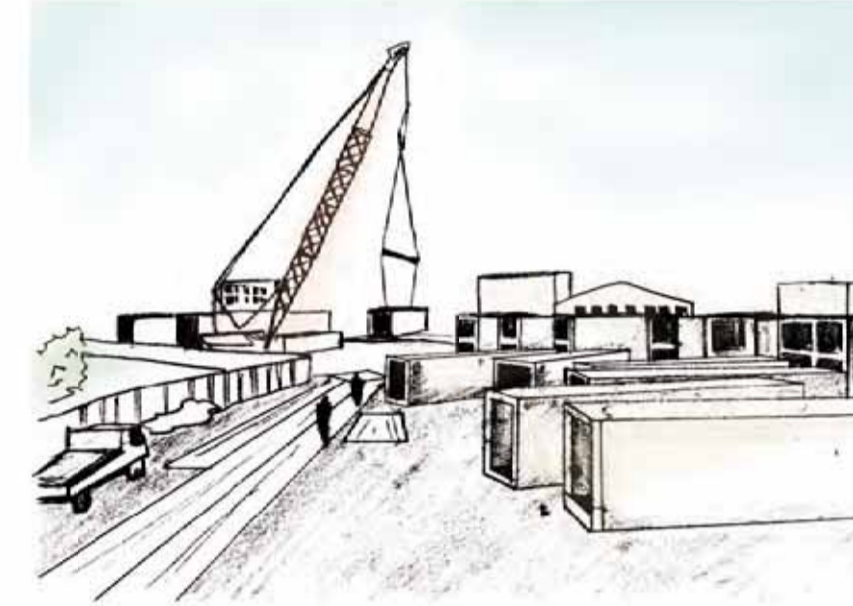


初期

サラリーマンのDさんは…
父Dさん、母、長男



水産加工場勤務のEさんは…
夫Eさん、妻



高齢者のFさん夫婦は…
夫Fさん、妻



地方自治体により提供された地元の安全地帯の仮設住宅に入る。

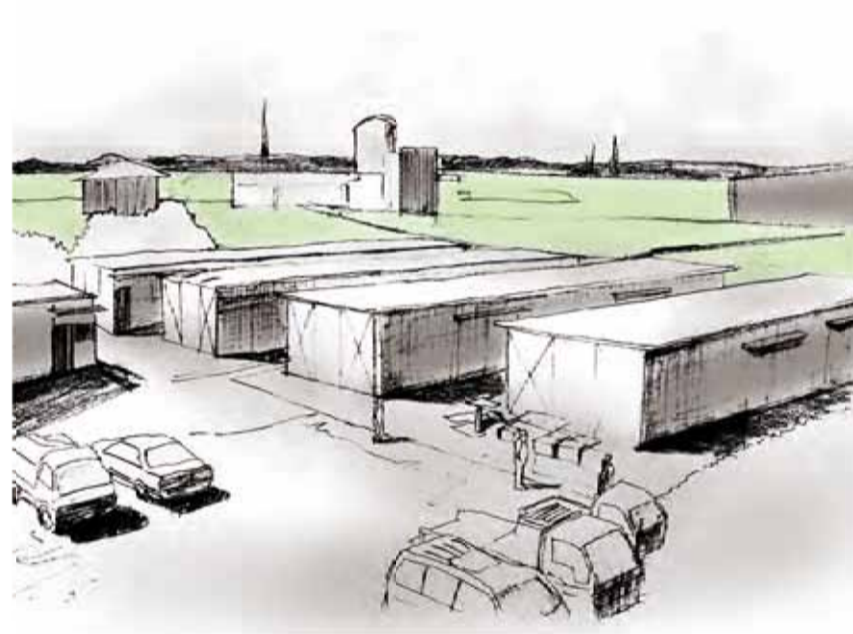
津波の被害で田んぼが瓦礫に埋まる。

震災直後にCさんの実家に避難。

都心の公営住宅に避難。

地元の仮設住宅に希望を出し妻と住む。

避難所で仮設住宅が決まるまで過ごす。



中期



父は仮設住宅より海沿いに建てた番屋に通い、漁業を続ける。

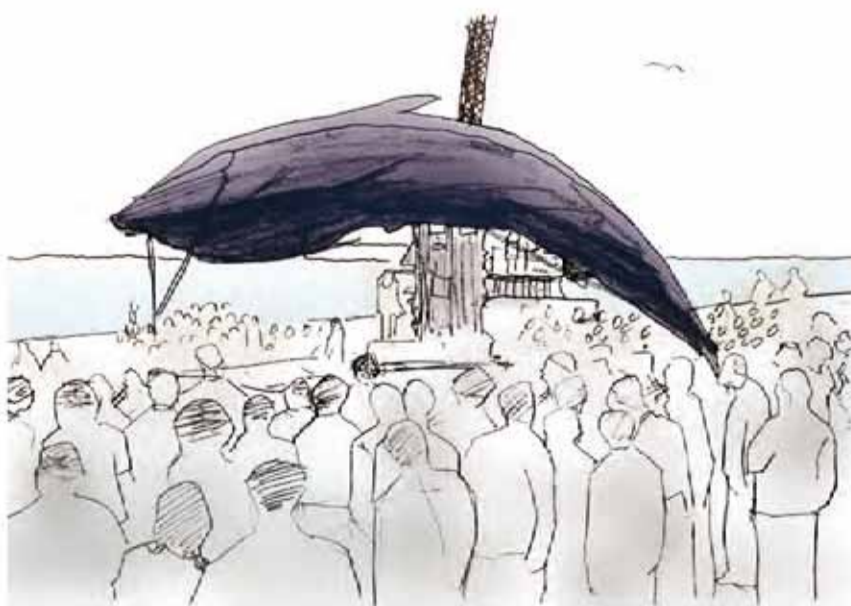
隣町の畑の付近にある仮設住宅に移り住む。

長女の学校が始まるため地元のアパートに戻る。

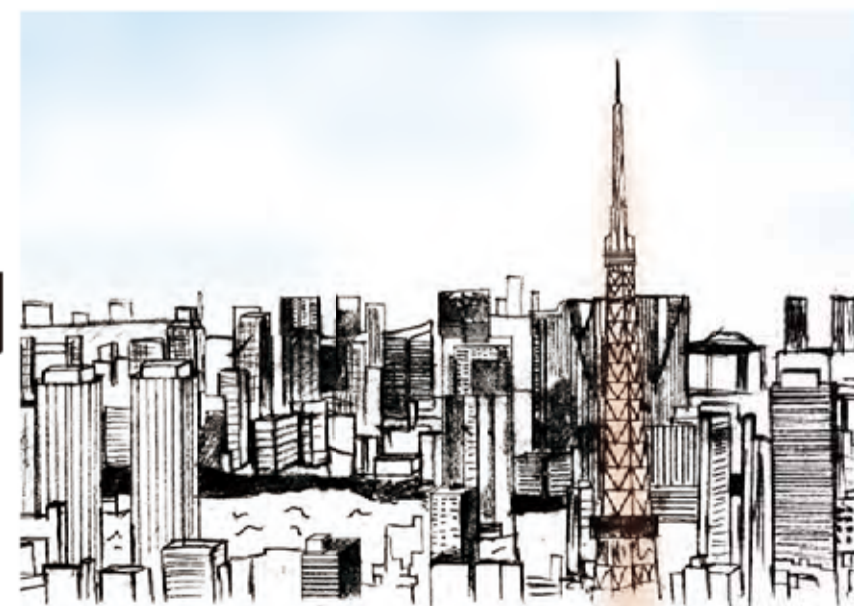
Dさんは避難先の本社に移動。

1年後より地元の水産加工工場に戻る。

妻と二人で仮設住宅に移り住む



長期



徐々に地元漁業が復活してくる。絵はマグロの水揚げに集まる漁協関係者

復興が進み、田んぼで稲作を始める。

Cさんの職場が壊滅状態のためCさんだけ単身赴任に。

そのまま地元には戻らず生活を続けていく。

復興が進み地元に一軒家を建てる。

元いた場所に前よりも小さめの家を建てる。絵はお盆を親戚一同で過ごしていること。